

住民の手で “地域医療” を守ってみせる!

NPO法人 地域医療を育てる会 (千葉) の活動レポート

その2 地域医療研修生との交流

ノンフィクション作家 柳原 三佳



NHKスペシャル裏話

昨年末、12月21日(日)に放映された「NHKスペシャル/医療再生」。本誌の読者の中には、この特集をご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

この日は、司会者のほかに、厚生労働省、医師会、医療過誤被害者の代表がメインゲストとしてトークを行い、スタジオには勤務医、開業医、

NPO法人地域医療を育てる会
シンボルマーク

2005年に千葉で生まれた「NPO法人 地域医療を育てる会」のシンボルマーク。「医療」「住民」「行政」「福祉」、これら4つの“ハート”が、4つ葉のクローバーのようにひとつになってほしい……。そんな願いを込めて作られました。

患者、行政というグループに分かれ、計40人くらいが席に着いていました。

実は私、ひよんなことからこの番組に出ることになり、スタジオにセットされたひな壇の最上段に、「患者」の名札をつけてスタンバイしていました。

私のお隣には、本連載で活動を紹介している「NPO法人 地域医療を育てる会」の理事長・藤本晴枝さん、そして「勤務医」のプロックには、私たちが活動の拠点としている千葉県立東金病院の平井愛山院長も座っておられました。

今回のNHKスペシャルは、大河ドラマ「篤姫」の後に続く、午後9時から11時までの2時間番組。ところが、8日前に行われたスタジオでの収録は予定を大幅に超え、実際には約6時間も費やされたのです。見ている方は、特に違和感をおぼえなかったかもしれませんが、スタジオで交わされた全ての発言を聞いていた私たちから見れば、

に、大半がカットされてしまった、残念だなあ……」

そんな印象を持たざるをえませんでした。

放送後は、「地域医療を育てる会」のプログでも、この件が話題に上り、かなり盛り上がりました。藤本さんは、

「私の発言も、「子育て中の母親として、子どもが具合が悪くなったときに不安を感じる」というところで切られてしまいました。あのコメントの後に、「今は、身近に相談できる人がいないために不安が高じて医療にかかる人が増えていると思う。その辺を整理して、医療にかかる過剰な負担を福祉・近隣のネットワーク作りなど他の手立てで解消していく必要がある」と言っていたのですが、伝えたいことが伝わらないばかりか、逆のメッセージが残ってしまった大変残念でした。」

このような感想を書き込んでおられました。

実は、藤本さんはスタジオでの収録の最後に、とつても素敵な提案をされていたんです。

「今年、はがきを1枚余分に買って、日頃お世話になっているお医者さんに、感謝の気持ちをこめて年賀状を送ってみませんか。」と。

隣で聞いていた私も、「ああ、それはいいアイデアだわ、私も書いてみよう」となんて思っていたのですが、残念ながらこの呼びかけもカット。時間の制限もあったのだと思いますが、結果的に放送には至りませんでした。

放送時にカットされた発言の中には、ほかにも、医療裁判を体験されたご遺族のコメントや研修医の意見など、多くの方に聞いていただきたいかったやり取りがたくさんありました。もちろん私も、医療崩壊が進む地域住民の一人として、「もっと医療者と手を取り合っていこう」という前向きな発言をしたつもりでしたが、結果的に、「夜間救急外来を充実させてほしい」といった内容のコメントだけが放送されてしまいました。

さてさて、前置きがすっかり長くなってしまうですが、NHKスペシャルの収録裏話はこのへんにして、

今回は、東金病院が取り組んでいる、医学生を対象とした「地域医療を体系的に学ぶ現地滞在型研修プログラム」をレポートしたいと思います。

地域独自の研修プログラム

「東金病院の平井です。○月○日から2泊3日で地域医療連携研修プログラムにみえている○○大学医学部学生の○○さんとの懇談会および交流会を以下の日程で開きます。御時間のある方はふるってご参加ください」

「NPO法人 地域医療を育てる会」のメンバーリストには、同会の会員でもある東金病院の平井愛山院長から、ときおりこうしたメールが届きます。

私たちが住んでいる、千葉県立病院群で行われている、研修医や医学生向けの研修には、地域医療の現場を肌で感じてスキルアップしてもらえよう、

①病院・診療所

②訪問看護ステーション

③調剤薬局

④夜間一次救急

以上4つの見学プログラムが組み込まれています。病院単体で医療サービスが完結する従来の「病院完結型医療」から、地域の様々な医療機関が機能を分担し、連携する「地域完結型医療」が主流になりつつある今、学年に応じた内容で医学生に地域医療を学んでもらおう、というのがその目的です。「私たち地域住民との交流」は、この4つのプログラムのオプションメニュー、といった感じでしょうか。

さて、2008年9月30日、私と藤本さんが東金病院の院長室でお会いしたのは、2泊3日の予定で研修にいられていた、東海大学医学部2年生の上島篤さん。彼は、一度社会人を経験し、その後、医師を目指して医学部を受験しなおしたという、

背筋のピシッとした学生さんです。

私たちは、まず、彼がどのような経緯で社会に出て、どのような理由で医師を志すことになったのか、についてたずねてみました。

「私は最初、別の大学の総合政策学部に入り、福祉心理学を専攻して学んできました。ここで常に言われてきたことが、"think globally、



東金病院の院長室で医学生との懇談。左は「NPO法人地域医療を育てる会」理事長の藤本晴枝さん。中央が上島さん

夏の九十九里浜で地域医療に触れてみませんか！

(平成20年度わかしおネットワークに学ぶ現地滞在型地域医療連携研修プログラム)

昨今、地域医療の重要性が叫ばれています。その重要性は医療過疎地域でますます高まるばかりですが、その具体的な中身を大学にて学ぶ機会は少ないのが現状です。千葉県立東金病院は、代表的な生活習慣病である糖尿病を中心に、学年に応じた内容で、地域医療に関心のある医学生の方々に、地域医療の実際の姿に触れる機会を提供します。

地域医療とは、「地域全体が一つの病院である」

本プログラムは、従来からの病院内に限られた見学プログラムと異なり、地域に展開している最新の「電子カルテネットワーク」をツールに、「中核病院」と地域の「かかりつけ診療所」および「かかりつけ薬局」とともに協力して地域医療を支えている「医療連携の実態」を体系的に学ぶ事ができます。

また、市民団体(NPO法人「地域医療を育てる会」)との双方の意見交換により、地域医療に求められる「地域住民の生の声」に触れることもできます。他では経験できない貴重な機会です。ふるってご参加下さい。なお、今冬、来春も予定しています。

対象：地域医療に関心のある全国の医学生の方。学年は問いません。

1コースにつき、2〜3人を予定しています。

個人での申し込み、グループでの申し込みのいずれも可能です。

受け入れ時期：平成20年7月〜9月。相談に応じます。宿泊・食事は当院で用意致します。

見学日程：基本的なパターンの例を示します。

- 【1日目】水曜日：オリエンテーションと東金病院の院内見学
午前 オリエンテーション・院内見学
午後 内分泌外来見学、療養指導・栄養指導、糖尿病カンファ参加
- 【2日目】木曜日：院内実習から地域の診療所見学へ
午前：総合診療外来見学実習、検査データやCT、MRIの読影研修もあります
午後：岡崎医院(東金市)訪問、在宅診療同行：在宅医療の実際に触れて頂きます
- 【3日目】金曜日：地域住民との意見交換と九十九里浜の診療所および薬局訪問
午前：NPO法人「地域医療を育てる会」会員との意見交換会
九十九里浜で太平洋を眺めながら昼食
午後：九十九里浜の「かかりつけ診療所」および「かかりつけ薬局」の訪問
 - ①高橋医院(九十九里町)：病院のCT・MRI画像を共有した生活習慣病診療の見学
 - ②安藤医院(白子町)：電子カルテネットワークを活用した糖尿病診療の見学
 - ③片貝薬局(九十九里町)：院外処方箋の受付とオンライン服薬指導の見学
 - ④夕方から東金病院の医師およびコメディカルスタッフとの交流会



九十九里浜

申込先
〒283-8588
東金市台方1229
千葉県立東金病院 地域医療連携室 前田、外口
電話 0475-52-8177 (AM 9:00-PM 5:00)
ファックス 0475-52-8225
電子メール renkei@pref-hosp.togane.chiba.jp
ホームページ http://www.pref-hosp.togane.chiba.jp/

東金病院が作成している研修プログラムの紹介ポスター。九十九里浜の写真がセールスポイントに！

元のアピールをしていました。上島さんにも、私たちの熱烈なラブコール(?)を受け止めてもらえ

心をしました。自分なりに第三者として地域医療を見てきた中で感じたことは、医療者側と地域住民との距離の問題でした。ここを一医療者として解決し、幅広く地域全体の問題を解決していきたいと考えるようになったわけです」

上島さんのお話を聞きながら、私も藤本さんも、思わず身を乗り出していました。

医学部2年生といえども、その志は地域医療の現実問題に根ざしており、聞いているこちらが勇気づけられるほど。そして、彼が千葉県立東金病院を研修先に選んだのは、はっきりとした目的意識があったことがよくわかったのです。

前向きな彼の話を聞きながら、私たちの中にも、「こんな思いを持ったお医者さんに、将来的にはぜひこの地域に来ていただきたい!」。そんな気持ちがあくむくとわきあがり、気づけばあの手この手で、しっかり地元のアピールをしていました。

野を持つて地道に活動していけ、という目標を掲げ、大学在学中には車いすバスケットボール大学連盟を設立し、全国大会開催の活動、地元商店街の活性化のための祭りの実践な

「その後、私はそれらの活動を活

分は、ここで医師になろうという決

心をした。自分なりに第三者として地域医療を見てきた中で感じたことは、医療者側と地域住民との距離の問題でした。ここを一医療者として解決し、幅広く地域全体の問題を解決していきたいと考えるようになったわけです」

たようで、

「今度は、医学部の仲間にも声を掛けて、ぜひまた研修に來たいと思います！」

そう言つてくださいました。

そして、1時間半ほどの懇談を終えた後は、夕食を兼ね、近くのお蕎麦屋さんへ移動。ここには仕事を終えた別のNPO会員や平井院長も集合し、再び上畠さんをかこんで、蕎麦定食を食べ、ちよつとお酒も飲みながら、にぎやかに懇親会を行いました。

若き研修医や医学生との懇談には、私もこれまでに数回出席しましたが、毎回、とてもリラックスした雰囲気でお話を楽しみながら、彼らが将来にどんな夢を持っているのか、また、医師としての仕事に今何を求めているのかを聞くことができ、中身の濃い時間を過ごすことができるのです。

医学生さんの高い志に感動

それから数日後、2泊3日の研修を終えた上畠さんから、次のような

「丁寧なメールが届きました。柳原様

今週、東金病院にてお世話になりました、東海大学医学部2年の上畠です。東金で学んだ3日間には本当に大きなものになりました。以前にも他の地域にて地域医療研修に行きましたが、今回は本当に地域と密着した研修で、藤本さん、柳原さんはじめ「地域医療を育てる会」の皆様との懇談会なども含め、まったく異なる実習ができ、有意義な日々を過ごすことができました。

戻つてから、「地域医療を育てる会」の活動内容を確認させていただきました。こんなに意識の高い住民がいらっしゃるんだと、改めて考えさせられ、そして今回、この東金地区の医療現場、住民活動を見て、本当に勉強になりました。やはり地域にはマンパワーが少ないのは現実ですが、少ない資源をいかに有効的に利用して最大効果を導けるか、それを学ぶことができました。

これらは地域医療を統括する東金病院の平井愛山先生の活動、また地域住民の思いをくみ取って積極的に活動されるNPO法人の活動があるからこそ、

経営状況の厳しい県立病院でも実践できるのだと実感しました。

これから私も学生として、地域に向き、学生と地域を結ぶ活動などを行っていきたくと考えます。今後、活動を行う上で、是非地域医療を育てる会の皆様にもお世話になりたいと思ひます。

たかが「懇談」、されど「懇談」。僅かの時間ではありますが、私たち地域住民とのふれ合いをこんなにも喜んでいただけただけなこと、そして少しでも今後の活動のヒントにしていただけならば、本当に嬉しいことだと思ひました。

実は、私自身、このNPOに参加するまでは、医学生や研修医がこうして自ら病院を選んで研修を積んでいるということを、まったく知りませんでした。一方、日本には、東金病院が行っているような「地域医療を体系的に実感できる研修」の機会が極端に少ないということも始めて知つたのです。

その後も何人かの学生さんとお会

いしましたが、いろいろお話を聞いてみると、待遇よりなにより、「地域医療」という現場で、自分らしく腕を磨きながら医療に携わっていきたくと考えている方が意外に多いことに驚きました。

別の学生さんからは、平井先生の元にこんなメールが届いていました。

「今回ご指導いただいた医師の方々からは、地域医療をよくしていきたいという気持ちと同時に、自らも技術や知識を磨いていこうという向上心が感じられました。高学年時には再度東金病院へ見学に來させていたいただきたいと強く思っています」

実際に、東金病院での合宿によるこの研修プログラムは大人気で、昨年は夏期を中心に26名もの研修生が参加。そのうちなんと5名が、東金病院を中心とした千葉県立病院群の研修を受けることになったそうです。

そんな熱意のある学生さんたちに、少しでも有意義な体験をして帰っていただくために、私たち住民にも、まだまだなにかできることがあるような気がしています。(つづく)